

# 研究活動報告

## 平成9年度実地調査「第11回出生動向基本調査」の施行

本調査は、昭和15年に第1回調査（旧称 出産力調査）が実施され、本年、その11回目の調査を実施した。この調査は出生と結婚に関するより総合的な動向を把握するために第10回から「出生動向基本調査」と名称を改めている。

なお調査は、厚生省大臣官房統計情報部、都道府県・保健所を設置する市・特別区および保健所の協力を得て、平成9年度実地調査として6月25日に実施、8月に調査票の回収を終了した。調査の目的ならびに実施の概要は以下のとおりである。

### 1 調査の目的

本調査の目的は、最近変化しつつあるといわれる夫婦の子どもの生み方に関する実態を明らかにするとともに、急速な晩婚化の進行にかんがみ、独身者の結婚・子ども・家族に関する考え方を把握することにある。

この調査の結果は、最近の出生率低下の原因解明に資するとともに、将来人口の予測ならびに広く各種行政の施策立案の基礎資料として役立てられる。

### 2 調査の対象および客体

この調査は、全国から無作為抽出法によって抽出された調査区内に居住する妻の年齢50歳未満の夫婦と、18歳以上50歳未満の独身の男女を調査対象とする。

調査客体は、平成9年度に実施される国民生活基礎調査の調査地区から500調査地区を無作為抽出し、その地区内に居住する妻の年齢50歳未満の夫婦（約10,000組）と18歳以上50歳未満の独身の男女（約10,000人）を抽出した。

### 3 調査の時期

平成9年6月25日（ただし、平成9年6月1日現在の事実による）

### 4 調査事項

#### 「夫婦調査」

- 1) 夫婦（およびその両親）の人口学的・社会経済的属性
- 2) 夫婦の結婚に関する事項
- 3) 夫婦の妊娠・出産歴
- 4) 妻の結婚・出産・家族に関する価値観
- 5) 妻の結婚・出産・就業に関する事項
- 6) 保育環境・保育資源に関する事項

#### 「独身者調査」

- 1) 独身者（およびその両親）の人口学的・社会経済的属性
- 2) 結婚に対する意識
- 3) 子ども・家族に関する価値観
- 4) ライフコース・ライフスタイルに関する意識

## 5 調査の方法

この調査は、厚生省大臣官房統計情報部、都道府県・保健所を設置する市・特別区および保健所の協力を得て実施された。調査は配票自計・密封回収方式によって行った。(三田房美記)

## 第70～74回人口問題審議会総会

第70回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館特別第1会議室において、平成9年7月16日(水)15時00分より17時00分まで開催された。学識経験者からのヒアリングが終わり、事務局において整理されたメモ(今までの意見)を基に、今後の進め方を議論した。整理されたものはドラフトであり、さらに整理し議論することとなった。

第71回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館特別第9会議室において、平成9年7月25日(金)14時00分より16時00分まで開催された。仙台市において7月7日、「少子化を考える市民会議」が、大阪府において7月10日、「少子化を考える府民会議」がそれぞれ開催され、岩淵勝好、宮武剛委員よりその概要が報告された。また、三沢孝労働省大臣官房政策調査部総合政策課長、名取はにわ総理府内閣総理大臣官房男女共同参画室長から、意見陳述があった。

第72回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館特別第9会議室において、平成9年9月10日(水)10時30分より12時30分まで開催された。香川県において8月27日、愛知県において9月9日、それぞれ「少子化を考える県民会議」が開催され、阿藤誠、岩淵勝好委員よりその概要が報告された。また、中間まとめに向けての討議が行われた。

第73回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館特別第9会議室において、平成9年9月18日(木)15時00分より17時00分まで開催された。前回に引き続き、中間まとめに向けての討議が行われ、その議論に基づいて、起草委員会において、人口問題審議会としての案を作成することとなった。

第74回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館講堂において、平成9年9月26日(金)15時00分より17時00分まで開催された。麻生圭子エッセイスト、河野真理子キャリアネットワーク代表取締役常務、黒田あゆみNHKアナウンサー、福島瑞穂弁護士、前田正子ライフデザイン研究所主任研究員の5人を招き、少子化の原因・対応方策に関するヒアリングを行った。(金子武治記)

## 日本人口学会関東・東北地域部会1997年第1回研究報告会

本年度から装いも新たに発足した日本人口学会関東・東北地域部会の第1回研究報告会が7月26日、中央大学駿河台記念館(東京都千代田区)で開かれ、次の4題の報告が行なわれた。

(1)大都市の少子化現象と住宅との関係について

白紙利恵(日本総合研究所)

(2)男女平均余命の格差について

高濱美保子(国立公衆衛生院)

(3)米国における殺人について：犠牲者は誰？

柳下真知子(ポピュレーション・レファレンス・ビューロー)

(4)マルサスが人口のチェックに「道徳的抑制」を加えた時代的背景

原剛(城西大学)